

町 長	助 役	課 長	課長補佐	係 長	主 査	係	合 議

顛 末 報 告 書

行事名 平成18年度 第1回目標設定委員会
 期 日 平成18年7月20日(木) 9:30～
 場 所 役場2階 小会議室庁議室
 出席者 公 募 : 原尾 進、東村 達夫 (房谷まひる、会田 淳一欠席)
 専門家 : 中口 毅博
 推進本部: 佐藤総務課長、小林町民課長
 マネージャー代表: 谷口主幹、道端技術
 事務局 : 森本課長、寺田主幹、高木係長、加藤主任

顛 末

経過説明(寺田主幹)

平成17年7月より運用していたが、職員間に徹底がなされず外部監査も出来なかった。

今年、4月より職員にメール、文章などで周知の徹底を図っている。平成18年度の活動については、活動記録を参照してください。

平成17年度独自目標達成率、及び平成18年度独自目標(案)の説明

平成17年度各独自目標の結果について報告。

平成17年度 独自目標達成状況一覧							
		基準年度実績		H17実績		削減率	評価
D101	温室効果ガスH16比較5%減	3,374	t-CO2	3,211	t-CO2	4.8	×
D102	電気使用量H16比較6%減	2,314	Mwh	2,185	Mwh	5.5	×
D103	容器資源リサイクル率100%	-	%	100	%	-	
D104	廃棄物排出量H16比較5%減	539	kg	363	kg	32.7	
D105	公用車使用燃料H15比較2%減	40,212	リットル	40,165	リットル	0.1	×
D106	LAS-関係職員研修年3回以上	-	回	全体研修 1(3月2 日)生涯学習 講座	回	-	
				各課研修0 環境ネー 研修 2			
D107	環境ニュース年6回以上発行	-		0回	回	-	×
各課 可燃・不燃ごみ排出時 ビル管職員による確認。(容器 プラが入っている場合は回収されない。)							

D101、D102、D105、D107については、達成する事が出来なかった。

平成18年度目標値(案)について説明。

【出された意見】

(谷口主幹)

廃棄物は、可燃・不燃なのか。32%の削減率の要因は。

(加藤主任)

燃えるごみ、紙類のリサイクルが徹底されたと思います。

(高木係長)

16年度は自分たちも含めて、結構紙をごみとして出していたと思います。それが資源で出すように成ったと思います。

(谷口主幹)

ノー・マイカー・デーの集計で、普段車以外で通勤している職員が、当日休んだ場合はどうするのか。現在は他の日を含めてカウントしているが。

(高木係長)

それで良いと思います。

(寺田主幹)

日にちを設定させてもらっているのは、意識付けも兼ねています。

(高木係長)

企画課は、毎日車以外で通勤したときには、“1”を入力する表を作って集計しています。

(東村委員)

土幌町の環境に関する取組が行われている事は大変よいことだと思う。私もISOの関係を取り組んできましたが、職員全員が理解するのに5年間かかりました。

数値的な物も大事ですが、全職員、出先の機関も含めて、町長がなぜこのL A S - Eを導入したかを職員が理解することが大事だと思う。

(中口氏)

東村さんが、おっしゃるとおりだと思います。数値的な物を掲げておく事は余り意味をなさない。それよりも職員意識してもらう事が大事です。

(原尾委員)

ここに出ている数値を見てもよく分からない。もっと町民が分かりやすい形で載せた方が良いのでは。例えば電気料を6%落としたことによって、平均的な家庭の何日分の電気料になったとか、水道料を減らすことによって、お風呂の水何倍分になる。と言った形で町民がより分かる形でPRした方が良いと思います。

(小林課長)

ノー・マイカー・デーの関係で、その日に排気量の小さな車で来る形でも良いのでは。

(東村委員)

意識付けが大事だと思います。病院や特老のような所は難しいところも有ると思います。

(谷口主幹)

電気料の関係で、ばらつきがありますが。何か把握していますか。

(森本課長)

残業する職員が多いと、ばらつきが有ると思います。

(小林課長)

現在の集中管理型を止めて職員各個、自分の居る所にだけ電気が付くようにした方がより節電できる。

(東村委員)

京都の工場に居る時、隣の武田薬品が、集中換気を各個人に、暖房を使えるように2億円掛けた改修したが、3年間で元は取れたそうです。こまめにやる事、色々方法は有ると思います。

(小林課長)

ウォームビズやクールビズを行う事で、電気や燃料を減らせると思います。町民にも役場に来る時は、一枚、二枚多めに着て来るようPRも必要。

(原尾委員)

住民サービスを考えると難しい所は有りますよね。病院や特老はエアコンが入って快適だが、役場は扇風機も無く、町民も暑くて大変だと思う。

(東村委員)

町民の理解する事が必要だと思う。今はそう言った時代なので、町民の理解、協力する事も必要に成ってくる。

(原尾委員)

PRが必要ですね。町民に理解してもらう事が。職員が気の毒だと思います。暑くても扇風機を使ってないし。

(原尾委員)

最近は、出張にバスは利用していないのか。

(高木係長)

一部職員が利用しています。

(小林課長)

バス代などを考えると公用車で行ってします。

(高木係長)

経済的な事も有りますが、地球温暖化について考えると公用車の利用を控えた方がいい。

(小林課長)

そもそも、地球温暖化について自治体に取り組むできものなのか。土幌町が温暖化について取り組もう何て無理な話。

(加藤主任)

そんな事を言っていたら出来ないじゃないですか。

(小林課長)

国がやるべき事と、土幌町が出来る事を明確にした方が良いと思う。我々は国の計画を立てているのでは無い。土幌の計画を立てている。

(谷口主幹)

将来的には、町民にいかに理解してもらうかが大事になりますよね。産業界より一般家庭の増加率が伸びてきていますよね。

(中口氏)

産業界の排出量は確かに多いですが、90年代から伸び率は止まっています。世界的に見ると日本の産業界は環境に対する取組は、進んでいます。ここ数年の伸びているのは、家庭や事務所からの温室効果ガスの排出量が増えている。1世帯当たりのエネルギー使用量が伸びています。

(小林課長)

要因は、核家族化が進んできている。

(中口氏)

それと高齢化が進み、在宅率が高くなったことが要因です。

(小林課長)

土幌町単独での取組を行うのは不可能。

(中口氏)

確かに言われる通りなんですけど、まずは環境自治体に加盟している会員さんからこの取組を初めてもらい、周りの自治体、最終的には国や世界を動かす事が出来ると思っています。なので土幌町が率先してこの取組を行って欲しいと思います。

(小林課長)

疑問なんですけど、1000年、2000年の自然のサイクルで温暖化と寒冷化が繰り返されていると思うが。

(中口氏)

確かにそうですが、ここ1000年の間に2度も気温が上がってきていることも事実です。その変化に自然界が対応しきれていない。

(小林課長)

そのことを証明はされてない。寒冷化になったことで土幌の町民が喜ぶのか。逆に温暖化になった方が作物も取れるので良いと思うが。

(加藤主任)

そんなことを話している訳では無い。そんな事を言ったらこの取組は出来ない。

(森本課長)

ハッキリしたことが分からないのも事実。でも当たらずとも遠からずだと思う。小林課長が言っていることも証明は出来ない。このご時世環境に配慮することが、これからの自治体に必要に成って来ている。

(小林課長)

それは分かった。でもこの独自目標で公用車の燃料使用量を2%削減で、各課に割り振られても困る。また、町民に広く理解してもらうためには、もっと職員は勉強する必要があるのでは。

(加藤主任)

各課に割り振りみたいなことはしてない。全体で2%削減する考えです。そんなことをしていたら仕事にならない。ノー・マイカー・デーや公用自転車なので全体で、少しでも減らす努力をする。そう言った考えです。

(森本課長)

各職員に意識してもための取っ掛かりで、始めたばかりなんだから、これからどんどん進めていけばいい。その為の目標設定だと思う。

(小林課長)

目標を設定する事によって、町民から質問なんかも聞かれるのでは。

(加藤主任)

それは各課長が課内に周知、徹底してもらえれば問題はない。

(寺田主任)

各課長は、実行責任者になっています。各課長が各職員に周知してもらえれば問題ないと思います。その辺を各課長が理解し徹底しなければ、各職員にも周知出来ないと思います。細かなところ、出来るところから少しでやる事によって、ここで掲げる独自目標の数値が達成出来れば周知、意識高まった証拠だと思います。

(小林課長)

土幌町の経済、幸せを考えた時にこの取組をする事によって経済効果が落ちるのではないか。そのことによって人口が減る事になってしまいます。

(東村委員)

それは違う。

(森本課長)

それは反対で、土幌町の町民、企業が環境の事に取り組んで行かなければ、周りから相手にされなくなると思う。農業は特に。

(東村委員)

土幌町がこの取組を行う事で、消費者側からすればクリーンなイメージを持つと思います。良い運動だと私は思います。

(原尾委員)

誰かが舵取りをしないとダメだと思います。町民は分かっている出来ないと思います。また、土幌町の産業関係は環境の取組は徹底しているのか。

(東村委員)

土幌はまだそこまでの意識は無い。都会に比べて意識は低いと思います。私が前に居た京都では、そうしなければ企業としてその土地に進出出来ません。京都府や各市などと公害対策に関する協定を行わなければならない。ISO14000か9000のどちらかを必ず各企業は持っています。それが当たり前なんです。北海道は、まだ環境に対する取組は遅れていると思います。土幌町がこのLAS-Eを取組事によって、土幌から物を求める立場の人間からすれば、安心・安全のバロメータになると思います。

(小林課長)

土幌が環境について厳しくする事によって企業が進出しづらくなるのでは。

(東村委員)

それは違います。それは逆です。土幌の環境に関する事をクリアーする事によってその企業はクリーンなイメージ、ラベルが付く訳なので出来た物はクリーンだと言う事になると思います。

(中口氏)

実際、会員の中に水俣市が有りますが、環境市都コンテストの1位に選ばれるほど、色々な環境に関する取組を行っています。過去の負のイメージを取り返そうと頑張った結果、企業が水俣市に集まってきています。

(小林課長)

そうなると、環境に対する条例などももっと厳しい物なども考えた行かないとならないのでは。

(東村委員)

昨日、環境基本条例に関する会議を行っています。

(原尾委員)

温暖化の原因の一つにメタンガスが有ると思いますが。排出量はどうなんですか。

(中口氏)

メタンガスは排出量は少ないです。環境に及ぼす影響は二酸化炭素の20倍ですが。

(原尾委員)

土幌は酪農の街なので、メタンガスも多いと思います。

(谷口主幹)

ガス集めて燃やし、有効に利用しています。

(原尾委員)

そこら辺のPRする必要は有りますよね。

(中口氏)

町も農協、農家も取り組んでるので、土幌のアイデンティティは高いと思います。取組を行う事で、まず視察などがどんどん増えてくると思います。町内で宿泊、買い物などが増える事で経済活動が活発になると思います。地球全体の取組なんです、土幌町が一步先を出取組むメリットはあります。

(原尾委員)

取り組みやすい事から町民にアピールする事も大切ですね。

(東村委員)

この事務局案について実際に取り組んでいる職員からの意見を聞いた方が良いのでは。

(佐藤課長)

私の意見としては、この数値で良いと思います。17年度はキチンと活動が出来ていなかった、18年度、再度17年度の数値に取り組む考えで良いと思います。

(中口氏)

他の自治体の目標設定委員会で、職員研修年何回と提案しました。そのれに対し市民の方から、職員の意識を高めるために、大々的な研修より各課で月1回課長がLAS-Eの取組の確認をする。と言った提案がありました。ぜひ原尾さんと東村さんに検討いただきたいと思います。

(東村委員)

私は、各課で行う事が大切だと思います。

(原尾委員)

職員研修を行った事で、各職員の家庭でどのように変わったか、町民の知りたいと思います。

(寺田主幹)

今まで取り組んできた町全体での研修。職員研修と町民と一緒に研修も大事になりますが、今、職員が取り組んでる内容も町民に広く知らせる事も重要になって来ます。全体と細部に渡る部分、両方が必要になってくると思います。研修では担当する職員だけが意識し他の職員は、そこまでの意識が無いと思うので。

(森本課長)

今、土幌町は環境に対する事に町全体で取り組む絶好のチャンスだと思います。ごみが有料化になった事で、町民の意識も変わってきていると思う。

(中口氏)

修正案を出したいと思います。今の話から全体と、各課で行う事も必要だと思いますので、一項目追加し“各課で取組の確認”も追加した方が良いと思います。

(小林課長)

月1回、各課で確認は無理だと思う。職員が現場に出ていて全員居ない時が多いので。

(東村委員)

それは言い訳に過ぎない。行う前から出来ないでは話しにならない。

(中口氏)

月1回課長会議が行われると聞いていますが、その後に話してもらえれば良いと思います。それは可能ですか。

(森本課長)

可能だと思います。原則、課長会議後に課内会議をする事になっているので。

(谷口主幹)

うちの課も現場に出ている職員は多いが、月1回課内会議は行っている。

平成17年度が徹底した取組が為されていないことから、平成18年度もD101、D102、D104、D105、については17年度同様の取組を行う。

D103の容器リサイクル率100%を削除ノー・マイカー・デーの実施率50%に変更する。

リサイクル率100%を削除した理由として、管理会社のごみ収集時に必ず確認し資源ごみなどが入っている場合は収集してもらえないため。

D106を追加し、水道資料量の使用水量を平成16年度の数値以上に成らないよう現状維持とする。

D107の各課研修を削除し職員研修を2回にする。

D108を追加し各課でLAS-Eの取組などについて確認、意識の統一を行う項目を追加する。

D109の環境ニュースについては、前年が1回も発行していないため、18年度は最低3回以上発行に回数の変更をする。

平成18年度 独自目標（案）					
		基準年度実績		目標値	
D101	温室効果ガスH16比較 5%減	3,374	t-CO2	3,172	t-CO2
D102	電気使用量H16比較 6%減	2,314	Mwh	2,175	Mwh
D103	ノー・マイカー・デー月1回実施率50%	-		50	%
D104	廃棄物排出量H16比較 6%減	539	kg	506	kg
D105	公用車使用燃料H15比較 2%減	40,212	リットル	39,408	リットル
D106	水道使用量H16年度 現状維持	45,469	m ³	45,469	m ³
D107	LAS-E関係職員研修年 2回以上	-	回	全体研修 1	回
				実行責任者・環境マネージャー研修 1	回
D108	各課LAS-E取組内容の確認	-	回	月1回	回
D109	環境ニュース年 3回以上発行	0	回	3	回

今年度の目標値と定め今後職員に取り組んでもらう。

今後の予定

（寺田主幹）

今年度、外部監査を11月7～8日で行いたい。12月の判定委員会に掛ける予定。監査を行う前に監査委員の研修を半日程度行い監査をする予定です。

また、外部監査を行う前に事務局段階の内部監査も行いたいと思っています。

全員承諾。